

# 在日生活をサポートする中国人向け 日本語学習 Web アプリケーションの開発

一場面別の日常会話と敬語の使い方を中心に  
 徐 珊\* 高井 那美  
 (北海道情報大経営情報学研究科)† (北海道情報大学)†

## 1 はじめに

近年、日本への留学生数は増加傾向にあるが、留学生は日本語の習得に苦勞している。例えば、日本語能力試験の N3 レベルは、日本語を 300 時間程度学習し、日常生活に役立つ会話が話せ、簡単な文章が読み書きできるという初級レベルであるにもかかわらず、認定率は連続して 40%以下となっている[1]。日本語学習の悩み、不満については、時間や場所の制約が主な原因となっている[2]。また、殆どの留学生は一定の日本語レベルに達した後来日するが、教科書での学習内容と日本の日常生活において用いられている会話とのギャップに悩んでいる。一方、「日本語が主たるコミュニケーションの手段となっている我が国において、『生活者としての外国人』には、生活場面と密着したコミュニケーション活動を可能とする能力を獲得することが求められる」[3]といわれている。したがって、いつでもどこでも勉強でき、高い実用性を持つ日本語学習教材が必要となっている。

先行研究としては、田中他が開発した教材[4]がある。田中らは、文法や文型、語句だけを勉強しても上達せず、自分と会話する相手の関係、場所、目的を理解する必要があると述べている。また、梅田[5]は、言語習得に成功した人々の共通点は、教室場面で学習したことを応用し、身近にある生のメディアリソースにアクセスし、それを活用しながら自分で学習していることだと示している。しかし、既存の無料日本語アプリケーションでは、単語、例文、文法などの内容は一般的に備わっているが、実践的な会話に焦点を合わせて日本語を入力する練習などが少ないという欠点がある。このように、今までのアプリケーションにはこれらの考え方がうまく取り込まれておらず、特に敬語に関しては相手との関係性の説明が不足している。

本研究では、日本語能力の上達を図り習得時の不便さを解消すべく、HTML5, CSS, JavaScript を用いて、日本語能力試験 N3 レベルの中国人向け Web アプリケーションを開発する。また、生活者としての留学生が身近

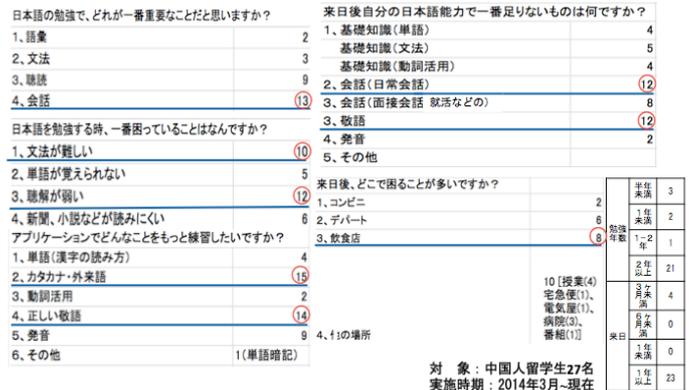


図1 アンケート調査

な生活に必要なコミュニケーション能力を獲得するように、教科書だけの知識とのギャップを解消し、日本でのスムーズな日常生活のサポートを目指している。

## 2 アプリケーションの概要

まず、実際に中国人留学生はどのように思っているかを知るため、主に敬語と来日後の日常生活会話について、留学生 27 名にアンケート調査を行った (図 1)。

この結果も参考にし、Web アプリケーションは図 2 のような構成とした。まず、実用性の高い日常会話と敬語を中心とした基礎的な説明を組み入れる。具体的には、基礎知識、専門用語、正しい敬語、日常会話という 4 つの項目を設定した。各項目では更に細かい説明と練習問題が提供される。練習問題では、中国人学習者が習得過程でよく間違える例を取り入れ、日本社会・文化を理解

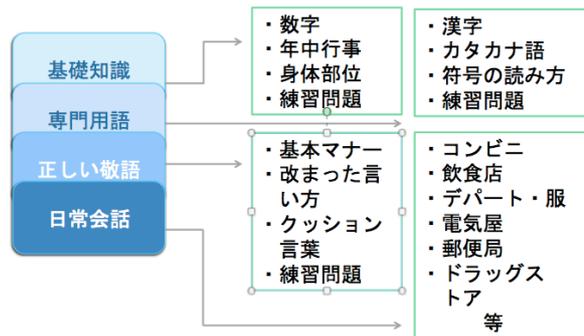


図2 アプリケーションの構成

\*s1381112@do-johodai.ac.jp

†江別市西野幌 59 番 2 北海道情報大学

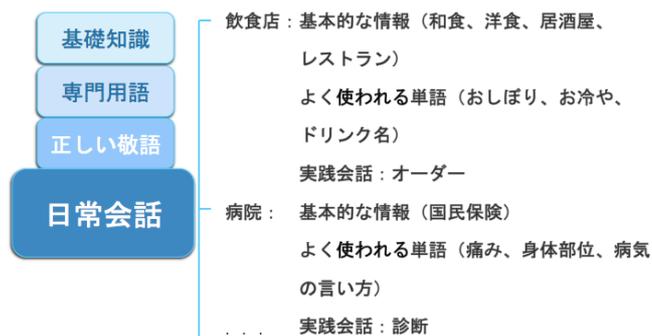


図3 日常会話

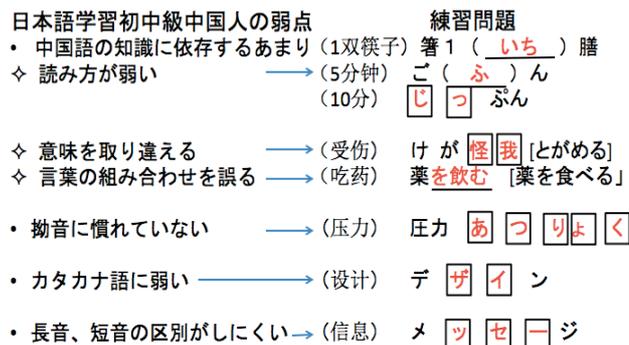


図4 練習問題の例

しながら、楽しく体験的に学べるようにする。

## 2.1 基礎説明

日本語の日にちや曜日には変則的な読み方があるので、トップ画面には毎回当日の読み方をひらがなで全て表示し、覚えさせるようにする。

基礎知識と専門用語の項目では、日常生活あるいは大学の講義等でよく使われる単語（漢字・カタカナ）を、助詞や動詞と組み合わせでセットで教えるようにする。正しい敬語の項目では、相手と自分の上下関係や、ソトとウチという日本人のものの考え方に即した説明を行う。日常会話の項目では、場面別に豆知識や特別な単語などを教え、現場へのインタビューをもとに実践的な会話場面を設定する（図3）。他の3つの項目の内容が含まれるので、練習問題は提供しない。

## 2.2 練習問題

中国語と日本語は同じ漢字文化圏なので、中国人学習者は中国語の知識に依存するあまり、漢字の意味や読み方の習得が不十分になりがちである。また、拗音に慣れていない、カタカナ語に弱い、長音・短音が区別しにくいという弱点もある。そこで、本アプリケーションの練習問題は、以上のような弱点の克服を考えて設定する。

例えば、基礎知識では数字を教えるが、練習問題では「箸一膳」のように数字と物の数え方をセットにして問題を作成する。また、言葉の組み合わせとしては、中国人は薬を食べると言ってしまうがちなので、薬を飲むと覚えさせる（図4）。

## 3 まとめ

本研究では、日本語初級レベルの中国人留学生の在日生活と日本語学習時の問題点に着目し、実用性が高い項

目に絞り込んだ日本語学習 Web アプリケーションを開発する。

オンライン学習には様々なメリットがあるが、学習してもらって強制力を持たない、臨場感の無さなどのデメリットもある。ユーザーの学習意欲を引き出せるように工夫することは今後の課題であるが、ARCSモデルを参考にして幾つかの対策方法を考えている。例えば、制限時間30秒以内で数字や時間に関する問題に答えさせ、毎回の正解率をグラフで表してユーザーの成長がわかるようにする。また、練習問題の得点やアプリケーションの名前をSNSでシェアし、学習を誘うような環境も作成していきたい。

## 参考文献

- [1] 日本語能力試験「過去の試験のデータ」、  
<http://www.jlpt.jp/statistics/archive/201302.html>
- [2] 独立行政法人国立国語研究所「『生活のための日本語：全国調査』結果報告<速報版>」、2009、  
[http://www.ninjal.ac.jp/archives/nihongo-syllabus/research/pdf/seika\\_sokuhou.pdf](http://www.ninjal.ac.jp/archives/nihongo-syllabus/research/pdf/seika_sokuhou.pdf)
- [3] 文化審議会国語分科会「『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について」、2010、  
[http://www.bunka.go.jp/kokugo\\_nihongo/kyouiku/nihongo\\_curriculum/pdf/curriculum\\_ver09.pdf](http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kyouiku/nihongo_curriculum/pdf/curriculum_ver09.pdf)
- [4] 田中 三千彦 他「留学生のニーズとレベルに合わせた日本語教材の開発」、聖泉論叢 (19), 127-136, 2011, 聖泉大学
- [5] 梅田 千砂子 「初級総合日本語学習のためのeラーニング学習支援リソースの開発:日本語学習支援コンテンツのプロトタイプ構築」、Polyglossia 23, 219-227, 2012-10